

(2) 様式第9号 (報告書)

(独立行政法人教職員支援機構委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業報告書

プログラム名	キャリア教育研修プログラムの開発における教職大学院のカリキュラムデザインを活かした教育委員会との協働
プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none">・日南市教育委員会と協働して開発したテキストを活用した研修プログラムであるとともに、協働してテキストを更新していくものである。・宮崎県教育研修センターと協働して、研修テキストを作成するものである。・実践協力校における校内研修に、指導主事とともに大学教員が参加することによる、学校の直面している課題に応じた大学院レベルの研修体制を構築するものである。・キャリア教育に関する県内全体の研修プログラムの構造を整理し、受講ニーズや育成指標に基づき、教員養成と教師教育の改善に寄与するものである。・キャリア形成の段階性をふまえて、学部教育・大学院教育・教員研修の整合性を図る基盤を形成するものである。

令和2年3月

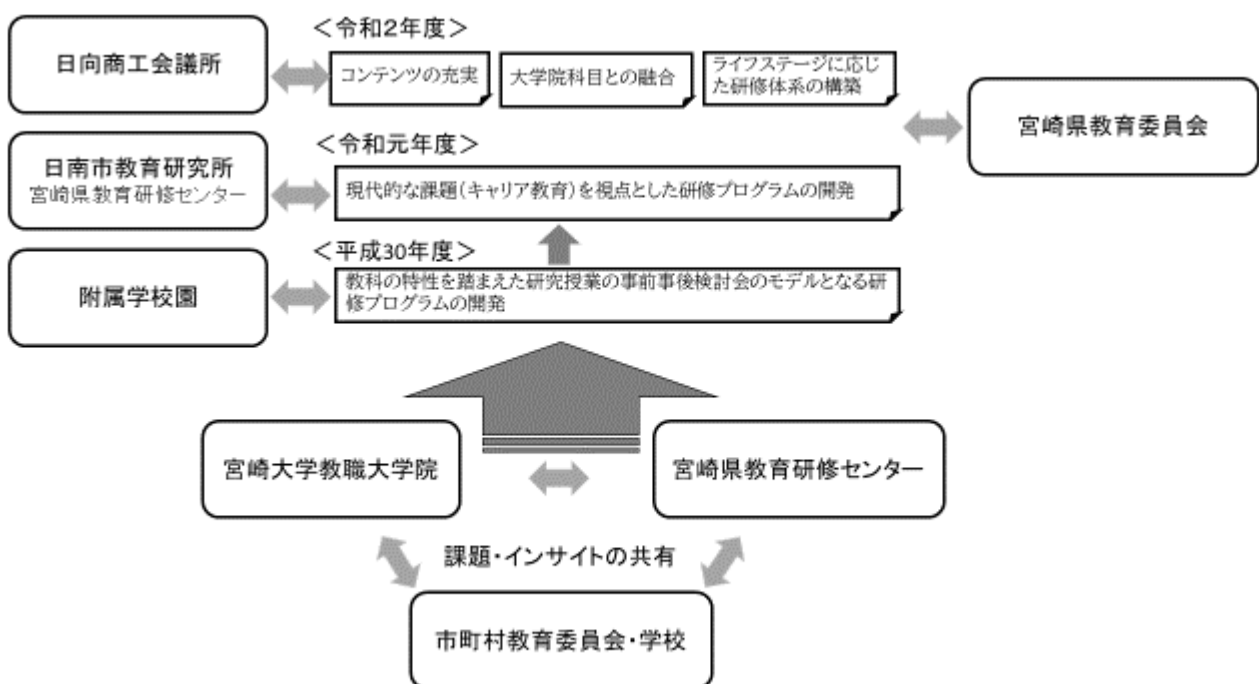
機関名 宮崎大学大学院教育学研究科
連携先 0985-58-5287

プログラムの全体概要

本学教職大学院では、平成27年度より、宮崎県教育委員会が主催する研修のうち、大学で実施する教員研修プログラムの開発に取り組み、平成28年度より附属学校園とも協働して「研究授業の充実」を視点とした研修プログラムを構築してきた。教科の特性をふまえた研究授業の事前・事後検討会のモデルとなる研修プログラムを開発したのである。平成30年度は、附属学校園と協働して、11の「研究授業の充実」研修を実施した。

本事業は、附属学校園と協働して実施する12の「研究授業の充実」研修とは別に、教職大学院が培ってきた現代的な教育課題に対応したカリキュラム開発の知見を活かして、キャリア教育に関する研修プログラムを宮崎県教育研修センターや市町村教育委員会と協働して開発したものである。キャリア教育に関する研修プログラムを、日南市教育委員会と宮崎県教育研修センターと協働して、教職大学院が培ってきた現代的な教育課題に対応したカリキュラム開発の知見を活かして、3つのプログラムを実施することとした。

令和2年度は、本学教職大学院が培ってきたカリキュラム開発の知見と教育委員会との協働体制を活かして、教職大学院のカリキュラムと教員研修プログラムを融合させるとともに、宮崎県教育研修センター等と協働して、宮崎県育成指標に基づき、ライフステージに応じた研修プログラムの体系化を推進することが課題となっている。



1 開発の目的・方法・組織

① 開発の目的

平成 20 年度に設置された宮崎大学教職大学院は、これまでに修了生に対する勤務校における授業力向上フォローアップ事業や、宮崎県内の教職員を対象にした教育フォーラムを通して、県内の教育委員会や学校と連携した大学院レベルの研修を企画・実施してきた。平成 26 年度より、宮崎県教育委員会が主催する校内研修の活性化モデルプログラム事業に教職大学院専任教員を中心に参画し、宮崎県教育研修センターとの協働体制を構築してきた。平成 27 年度より、宮崎県教育委員会が主催する研修のうち、大学で実施する教員研修プログラムの開発に取り組み、平成 28 年度より附属学校園とも協働して「研究授業の充実」を視点とした研修プログラムを構築してきた。平成 29 年度には、宮崎県教育研修センターと協働して各学校における「メンター方式による初任者研修」プログラムの構築を支援し、平成 30 年度には、教職大学院が蓄積してきたメンター指導の知見を生かしながら、教育課題に応じた大学院レベルで展開する研修プログラムを開発するとともに、ストレート院生と現職院生の達成度評価指標の違いをふまえてカリキュラムを構成してきた教職大学院の知見を生かして、学校や地域の活性化を担うメンターの育成を推進する基盤を整備してきた。

本事業により、教職大学院が培ってきた現代的な教育課題に対応したカリキュラム開発の知見を活かして、キャリア教育に関する研修プログラムを宮崎県教育研修センターや市町村教育委員会と協働して開発する。さらに、教員研修プログラムの構築にかかわる宮崎県教育委員会や市町村教育委員会との協働のあり方を整理することで、これまで、大学、附属学校園、教員研修センター、各市町村教育委員会、公立学校それぞれで取り込まれてきた研修を構造化するとともに、行政と大学のみならず、企業等と協働した研修プログラムの開発を行うことで、産官学連携を推進する。

② 開発組織

所属・職名	氏名	担当・役割
教育学研究科長	幸秀樹	教育学研究科・統括
教育学部長	藤井良宜	教育学部・統括
教育協働開発センター長	吉村功太郎	事業運営・統括
研究担当副学部長	戸ヶ崎泰子	効果測定・統括
教育学研究科・教授	立元真	効果測定担当
教育学部・准教授	境泉洋	効果測定担当
教育学研究科・准教授	湯田拓史	効果測定担当
教育学部・准教授	遠藤宏美	効果測定担当
教育学研究科・准教授	安影亜紀	効果測定担当
教育学研究科・専攻長	菅裕	教職大学院(教職実践開発専攻)・統括
附属学校園統括長	添田佳伸	「キャリア教育の現在Ⅲ」・統括
教育学研究科・准教授	竹内元	連絡調整窓口
附属中学校・校長	山下辰弥	教育学部附属中学校・統括
附属中学校・教諭	鬼塚拓	附属中学校におけるキャリア教育実践の開発・担当
研修センター・所長	金子文雄	宮崎県教育研修センター・統括
研修センター・主幹	柳瀬智文	宮崎県教育委員会が主催する研修・統括
研修センター・指導主事	由浅公章	宮崎大学との連絡調整窓口及び「キャリア教育の現在Ⅰ」・担当
日南市教育委員会・教育長	黒木康英	日南市教育委員会・統括
日南市教育委員会・対策監	土持光司	「キャリア教育の現在Ⅱ」・統括
日南市教育委員会・指導主事	西川元	宮崎大学との連絡調整窓口及び「キャリア教育の現在Ⅱ」・担当

2 開発の実際とその成果

①宮崎大学が実施する教員研修:キャリア教育の現在 I -特別活動を要とするキャリア教育の課題

○ ねらい

子どもたちが体験的な学びや日常の学習から、将来の生き方を考えたり振り返ったりする授業実践事例を紹介するとともに、子どもたちが活動を記録し蓄積する教材(キャリア・パスポート)を検討する。体験後のふりかえりを重視した学級活動におけるキャリア教育の授業事例をもとに、「特別活動を要とする」キャリア教育実践の課題を共有する。

○ 概要

主催:宮崎大学教育学部

共催:宮崎県教育研修センター

実施日:2019年7月5日(金)13:00~16:30

会場:宮崎大学創立330 記念交流会館コンベンションホール

主な研修対象:小学校・中学校・高等学校教諭、50名程度

ファーストステージ(1~5年)、セカンドステージ(6~10年)、ミドルステージ(11~20年)、
トップステージ(21年~)

講師:竹内元(宮崎大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻・准教授)

安影亜紀(宮崎大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻・准教授)

由浅公章(宮崎県教育研修センター・指導主事)

参加者数:24名

○ 実施方法

宮崎県教育研修センター指導主事の由浅公章が、子どもたちが体験的な学びや日常の学習から、将来の生き方を考えたり振り返ったりする授業実践事例を紹介するとともに、子どもたちが活動を記録し蓄積する教材(キャリア・パスポート)のあり方を参加者で検討した。体験後のふりかえりを重視した学級活動におけるキャリア教育の授業事例をもとに、「特別活動を要とする」キャリア教育実践の課題を共有する研修となった。キャリアパスポートが導入される背景を踏まえて、各学校におけるキャリアパスポートの利活用について協議した。学校種間のつながりをどうつくるかが課題として残された。



研修項目	時間数	目的	内容、形態、使用教材、進め方等
・キャリアパスポートが導入される背景	30分	背景の理解	講義:子どもたちが直面する社会や広大接続の変化等を理解し、これからの教育課程の在り方をふまえ、

・キャリア・パスポートのあり方	30分	理念等の理解	学習指導要領に基づいてキャリア教育に求められていることを整理した。 講義:キャリアカウンセリングのあり方を理解し、コミュニケーションワークを通して、キャリアパスポートの活用の仕方を検討した。キャリアパスポートを活用する意義や「総合的な学習の時間」と「特別活動の時間」の関係を整理した。
・学級活動におけるキャリア教育の授業事例	30分	イメージの喚起	講義:小学校及び中学校における具体的な先行事例を紹介し、キャリアパスポートを利活用する実践イメージを共有した。
・各学校におけるキャリアパスポートの利活用	90分	利活用の方法を協議し、課題を抽出する	ワークショップ:ワールドカフェを活用して、各学校におけるキャリアパスポートの利活用のあり方を協議した。
・まとめ	10分	意味づける	講義:ワールドカフェの内容をふまえて、本日の学びを意味づけるとともに、実践課題を整理した。

○実施上の留意事項

学校種ごとにグループワークを行った。研修内容については、宮崎県教育研修センターと協議して構成した。

○研修の評価方法

ワールドカフェの発言内容を通して、講義内容の理解度を確認した。

○研修実施上の課題

学校種間の連携が課題となるが、どのように連携していくのかという具体的な検討はできない。

②宮崎大学が実施する教員研修:キャリア教育の現在Ⅱ-仕事の方法を学び、授業を改善する子どもを育てる実践の展望と課題

○ねらい

日南市教育委員会と協働して開発してきた想像力を駆使し、試行錯誤を行い、自己や他者との対話を促すキャリア教育の授業プログラムを受講者が体験しながら、仕事の方法を学び、授業を改善する子どもを育てる実践の展望と課題を検討する。

○概要

主催:宮崎大学教育学部

共催:宮崎県教育研修センター

実施日:2019年12月18日(水)13:00-16:30

会場:宮崎大学創立330記念交流会館コンベンションホール

主な研修対象:小学校・中学校教諭、50名程度

ファーストステージ(1~5年)、セカンドステージ(6~10年)

講師:竹内元(宮崎大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻・准教授)

安影亜紀(宮崎大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻・准教授)

参加者数:32名

○ 実施方法

日南市教育委員会と協働して開発してきた「仕事の方法を学び、授業づくりに参加する子どもたちを育てる特別活動を中心とした他者から学ぶにちなんキャリア教育プログラム」を体験的に受講するとともに、「イノベーション」「KAIZEN」「コラボレーション」といった仕事の方法を教材化した活動を検討した。たいけんおづりかえりをも体験することで、キャリアパスポートにどう経験と学びを蓄積していくかを検討した。

研修項目	時間数	目的	内容、形態、使用教材、進め方等
・日南市教育委員会と協働してきた特別活動プログラムの背景と仕事の方法の理解	50分	背景の理解	ワークショップ:子どもたちが直面する社会の変化等を理解し、「紙コップタワー」「紙タワー」「トランプ時計」といった活動がもつ教育内容を検討することで、「イノベーション」や「KAIZEN(改善)」といった仕事の方法を理解した。
・教材や活動を開発してきたポイントと仕事の方法の理解	50分	教材開発の理解	ワークショップ:「人間コピー」と「まるちゃんの買い物」という活動を通して、「協働」という仕事の方法を学ぶとともに、教材開発のプロセスを理解した。
・ふりかえりを通した学びの共有	60分	学びの共有を通した実践の検討	ワークショップ:二列ワークを通して、学びを共有するとともに、指導者としてどのように活動を活用するか、普段の授業にどう取り入れるかななどを協議し、実践課題を整理した。

○実施上の留意事項

ワークショップを通して、実感的に教育内容を理解するとともに、ふりかえりの方法を体験することで、キャリアパスポートの記述のあり方を学ぶように、講義をデザインした。日南市教育委員会と協働して制作してきたテキストを配布した。

○研修の評価方法

二列ワークの発言内容を通して、講義内容の理解度を確認した。

○研修実施上の課題

教育課程上の位置づけをどのように学校でするのが課題となるが、どのように教育課程を工夫するかを検討できていない。

③宮崎大学が実施する教員研修:キャリア教育の現在Ⅲ-中学校における新しい職場体験学習の在り方

○ねらい

今後の激変社会を見据えた、新しい職場体験学習の提案や実践事例の紹介をし、仕事の体験だけでなく、企業価値(社員の魅力、職務の魅力等)を発見する「発見型職場体験学習」の実践事例を解説するとともに、総合的な学習の時間(探究的な学習)で実践するキャリア教育の課題について理解を深める。

○概要

主催:宮崎大学教育学部

共催:宮崎県教育研修センター

実施日:2019年12月26日(木)13:00-16:30

会場:宮崎大学創立330 記念交流会館コンベンションホール

主な研修対象:小学校・中学校教諭、50名程度

ファーストステージ(1~5年)、セカンドステージ(6~10年)、ミドルステージ(11~20年)、
トップステージ(21年~)、管理職ステージ

講師:竹内元(宮崎大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻・准教授)

安影亜紀(宮崎大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻・准教授)

由浅公章(宮崎県教育研修センター・指導主事)

参加者数:20名

○実施方法

宮崎県内の学校や事業所等のカリキュラム改善を視察し、教材化するとともに、カリキュラムのみならず学校組織の改善等も含めた実践として理解できるよう、問題点を参加者で共有した。

研修項目	時間数	目的	内容、形態、使用教材、進め方等
・職場体験学習の問題点を理解する	30分	問題点の理解	講義:中学校における職場体験学習の問題点を示した。
・宮崎大学教育学部附属中学校のキャリア教育を視点とした学校改革の実践プロセスと構造を理解する	30分	実践事例の理解	講義:宮崎大学教育学部附属中学校のキャリア教育を視点とした学校改革の実践プロセスと構造を示した
・キャリア教育を視点とした学校改善を3つの実践プロセスをふまえて、協議する。	80分	学びの共有を通じた実践の検討	ワークショップ:ワールカフェを通して学びを共有するとともに、勤務校の実態を踏まえて課題を抽出した。
ふりかえりを通じた学びの共有	20分	まとめ	講義:ポイントを整理し、実践課題を共有した。

○実施上の留意事項

学校経営・カリキュラム改善がつながるよう、講義をデザインした。日本生活科・総合的学習教育学会(2019年6月15日)及び日本キャリア教育学会(2019年11月10日)で研究成果等を発表し、コンテンツ内容の検証を行っていながら、研修を構成した。

○研修の評価方法

ワールカフェの発言内容を通して、講義内容の理解度を確認した。

○研修実施上の課題

学校経営上の課題を、管理職ではない教員がどのように実践していくのかが検討できていない。

④みやぎき教育フォーラム 2020

○ねらい：宮崎県教育委員会と協働して、キャリア教育研修プログラムの提案等も含めた、キャリア教育をテーマにしたフォーラムを開催する。宮崎大学教育学部では、宮崎県教育委員会と協働して地域に求められる現代的な教育課題に向き合い、その協働の成果をみやぎき教育フォーラムとして発信してきた。本年度は、キャリア教育をテーマに、県内の先進実践校の協力を得て、キャリア教育を視点としてどのようにカリキュラム改善を行ってきたかを報告した。さらに、2つの民間団体にも参画いただき、宮崎県の学校にどのような支援が求められているのか、どのような支援が大学等にできるのかを検討した。



○概要

主催：宮崎大学教育学部

共催：宮崎県教育委員会

実施日：2020年2月20日(木)13:00-16:30

場所：宮崎大学創立330記念交流会館コンベンションホール

主な研修対象：小学校・中学校・高等学校教諭及び大学関係者、200名程度

参加者数：148名



○ 実施方法

<プログラム>

開会行事(13:00-13:10)

挨拶：藤井良宜(宮崎大学教育学部長)

挨拶：金子文雄(宮崎県教育研修センター所長)

リレー報告：「キャリア教育の特質と課題－新たな職場体験の実践を中心に」(13:10-14:30)

由浅公章(宮崎県教育研修センター指導主事)

黒田哲郎(日向市立大王谷学園主幹教諭)

伊東泰彦(日之影町立日之影中学校校長)

高木資子(株式会社マルイチ取締役)

青木雅矢(伊勢ヶ浜保育園園長)

鬼塚拓(宮崎大学教育学部附属中学校教諭)

竹内元(宮崎大学大学院教育学研究科准教授)

休憩(14:30-14:50)

トークセッション：「地域と協働したキャリア教育の展望」(14:50-16:10)

川田達彦(一般社団法人教育ソリューション研究協議会キャリア教育デザイナー)

小見まいこ(特定非営利活動法人みらいず Works 代表理事)

吉村功太郎(宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター長)

総括：水永正憲(宮崎県キャリア教育支援センター・トータルコーディネーター)(16:10-16:25)

閉会行事(16:25-16:30)

挨拶：幸秀樹(宮崎大学大学院教育学研究科長)

○実施上の留意事項

関係諸機関と繰り返し、打ち合わせ・協議を行い、実践を構築しつつ、プログラムを構成した。

2019年6月3日(月)一般社団法人カンコー教育ソリューション研究協議会との打ち合わせ

2019年6月15日(土)宮崎県教育研修センター・一般社団法人カンコー教育ソリューション研究協議会との打ち合わせ

2019年6月28日(金)宮崎大学教育学部附属中学校とのキャリア教育研究会

2019年7月5日(金)宮崎県教育研修センターとの研修総括及び・打ち合わせ

2019年7月31日(水)延岡市教育委員会とのうちあわせ

2019年8月26日(月)宮崎大学教育学部附属中学校とのキャリア教育研究会

2019年8月30日(金)一般社団法人カンコー教育ソリューション研究協議会との打ち合わせ

2019年9月4日(金)宮崎大学教育学部附属中学校とのキャリア教育研究会

2019年9月26日(木)日向商工会議所とのみやざき教育フォーラム打ち合わせ

2019年10月7日(月)日之影町立日之影中学校とのみやざき教育フォーラム打ち合わせ

2019年12月3日(火)一般社団法人カンコー教育ソリューション研究協議会との打ち合わせ

2020年1月29日(水)日向商工会議所とのみやざき教育フォーラム打ち合わせ

3 今後の課題

平成26年度より、宮崎県教育委員会が主催する校内研修の活性化モデルプログラム事業に教職大学院専任教員を中心に参画し、宮崎県教育研修センターとの協働体制を構築してきた。平成27年度より、宮崎県教育委員会が主催する研修のうち、大学で実施する教員研修プログラムの開発に取り組み、平成28年度より附属学校園とも協働して「研究授業の充実」を視点とした研修プログラムを構築してきた。

平成29年度は、附属学校園と協働して、11の「研究授業の充実」研修を実施した。教科の特性をふまえた研究授業の事前・事後検討会のモデルとなる研修プログラムを開発したのである。11の研修プログラムのうち、8のプログラムが附属小学校と協働したものであり、小学校教員に限定した研修が4つある。研修対象に偏りがあり、中学校の研修を増やすとともに、対象の幅をもたせることが検討課題として残された。さらに、現代的な課題にコミットした研修のうち、附属学校園と協働したものが2つと少なく、附属学校園と協働していないキャリア教育に関する研修などを教育委員会や附属学校園と協働して複数のプログラムを構造化していくことが課題となった。

なお、平成30年度より宮崎県教育研修センターとも協議して教職大学院院生のみならず、派遣研究生にも研修の参加をひらいた。

令和元年度は、宮崎県教育研修センターと協議して、附属小学校と協働する研修を7つ、附属中学校と協働する研修を6つで構成した。また、キャリア教育に関するプログラムを、日南市教育委員会と宮崎県教育研修センターと協働して、3つのプログラムを実施することとした。教職大学院が培ってきた現代的な教育課題に対応したカリキュラム開発の知見を活かして、キャリア教育に関する研修プログラムを宮崎県教育研修センターや市町村教育委員会と協働して開発したものである。

令和2年度は、本学教職大学院が培ってきたカリキュラム開発の知見と教育委員会との協働体制を活かして、教職大学院のカリキュラムと教員研修プログラムを融合させるとともに、宮崎県教育研修センターや市町村教育委員会と協働して、現代的な課題に対応した研修プログラムを開発・実施する。さらに、宮崎県教育研修センター等と協働して、宮崎県育成指標に基づき、ライフステージに応じた研修プログラムの体系化を推進することになっている。

実施年度	研修開講数	附属小学校実施数	附属中学校実施数	大学院科目との関連数
平成 27 年度			0	
平成 28 年度	9	5	0	4
平成 29 年度	13	8	1	5
平成 30 年度	15	8	3	5
令和元年度	21	6	6	8
令和 2 年度	23	8	6	12

4 連携による研修についての考察

(連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等)

- ・宮崎県教育委員会のみならず、宮崎県内の市町村教育委員会と連携を推進している点。今後は、市町村教育委員会単位でも連携協定を締結していく。また、日向商工会議所とも連携協定を締結し、さらなる研修内容の充実を図っていく。
- ・連携している市町村教育委員会等の指導主事を、附属教育協働開発センター協働研究委員として委嘱するなど、大学側の組織改善をしている点。
- ・これまでの共同研究の成果を活かして学会発表を行うとともに、教育委員会と研究レベルでの協働を図ろうとしている点。科研費等への申請につなげていくことが課題である。

5 その他

[キーワード] キャリア教育、参加型、リーダー

[人数規模] D. 51名以上

[研修日数(回数)]

A. 1日以内

【担当者連絡先】

●実施機関

実施機関名	宮崎大学大学院教育学研究科
代表者氏名	幸秀樹
事務担当者	所属・職名 宮崎大学大学院教育学研究科・准教授
	氏名(ふりがな) 竹内 元 (たけうち げん)
	事務連絡等送付先 〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1 宮崎大学大学院教育学研究科
	TEL/FAX TEL:0985 - 58 - 5287/FAX:0985 - 58 - 5287
	E-mail gengen@cc.miyazaki-u.ac.jp

●連携機関

共同実施機関名		宮崎県教育委員会
所在地		〒880-0835 宮崎市阿波岐ヶ原前浜 4276 - 729 宮崎県教育研修センター
事務担当者	所属・職名	教育支援課・指導主事
	氏名（ふりがな）	由浅 公章 (ゆあさ きみあき)
	事務連絡等送付先	〒880-0835 宮崎市阿波岐ヶ原前浜 4276 - 729
	TEL/FAX	TEL : 0985 - 24 - 3156 / FAX : 0985 - 24 - 3578
	E-mail	Yuasa-kimiaki@pref.miyazaki.lg.jp
共同実施機関名		日南市教育委員会
所在地		〒887-0021 日南市中央通 1 丁目 9-7
事務担当者	所属・職名	日南市教育委員会・指導主事
	氏名（ふりがな）	西川 元 (にしかわ げん)
	事務連絡等送付先	〒887-0021 日南市中央通 1 丁目 9-7
	TEL/FAX	TEL : 0987-31-1144 / FAX : 0987-24-0987
	E-mail	g-nishikawa_ni@city.nichinan.lg.jp